

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28325 古代の「食」を探ろう —ミクロな世界からみた食の歴史—



開催日：平成28年7月31日（日）

実施機関：鹿児島国際大学

(実施場所) (同上)

実施代表者：大西智和

(所属・職名) (国際文化学部・教授)

受講生：小学生17名・中学生1名

関連URL:

【実施内容】

受講生にわかりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

- ・講義では、内容をわかりやすく構成するとともに、画像を多用し、動画も用いたスライドを作成し、理解しやすいものとなるよう心がけた。
- ・実験では、実施代表者・実施分担者・協力者ができるだけ受講生と関わるようにして、受講生が自ら活発な活動や発言をするよう心がけた。
- ・実験「土器を使ってご飯を炊こう」では、事前に作成した土器で調理し、調理したものを食べてみるという体験を取り入れた。また、調理・試食後に、土器使用痕の解説およびディスカッションも行った。このような一連のプロセスは、研究を理解してもらうことに大いに役立ったと考えている。

当日のスケジュール

9:30～9:50	受付（鹿児島国際大学8号館）
9:50～10:10	開講式（あいさつ（飯田副学長）、オリエンテーション、科研費の説明）
10:10～10:40	講義1 「食の世界へのいざない」（講師：大西智和）
10:40～10:50	休憩
10:50～11:20	講義2 「人骨から探る古墳時代の食生活」（講師：竹中正巳）
11:20～11:30	休憩
11:30～12:10	実験1 「土の中から食べ物をみつけよう」
12:10～13:10	昼食・休憩
13:10～13:30	講義3 「土器の痕跡(こんせき)から調理方法を探る」（講師：鐘ヶ江賢二）
13:30～13:50	休憩・移動
13:50～15:30	実験2 「土器を使ってご飯を炊こう」および試食（クッキータイム）
15:30～15:50	ディスカッション（調理に用いた土器を使って）
15:50～16:10	修了式（アンケート記入、未来博士号授与）
16:10	終了・解散

実施の様子

(図、写真等を用いてわかりやすく記入してください)



写真1 あいさつ (飯田副学長)



写真2 講義1「食の世界へのいざない」



写真3 講義2「人骨から探る古墳時代の食生活」



写真4 実験1「土の中から食べ物をみつけよう」



写真5 講義3「土器の痕跡から調理方法を探る」



写真6 実験2「土器を使ってご飯を炊こう」



写真7 ディスカッション



写真8 集合写真

事務局との協力体制

- ・研究教育開発センターが委託費の管理と支出報告書の作成を行った。また、日本学術振興会への連絡調整と、提出書類の確認及び本事業の受付、保険加入手続き等も行った。
- ・研究教育開発センター、総合企画部入試・広報課及び教務部実習支援課がマスコミ・小学校等を通じて本事業のPR、チラシ送付を行った。また、大学HP等の媒体で広報を行った。
- ・実施代表者と分担者が連携して、近隣の小学校・教育委員会等を訪問し、本事業のPRを行った。

広報活動

- ・研究教育開発センターが、県・市教育委員会・マスコミ各社に後援を依頼した。
- ・実施者（代表者・分担者）が本事業のポスターやチラシを制作し、研究教育開発センターおよび教務部実習支援課が教育委員会・マスコミ各社、鹿児島市内の小学校へ郵送し広報に努めた。
- ・実施者が近隣の小学校5校を訪問し、本事業について広報を行うとともに、小学生5・6年生全員へのチラシの配布を依頼した。
- ・実施者、研究教育開発センター、総合企画部入試・広報課が連携し、ホームページに事業の概要および募集案内を制作し掲載した。さらに、新聞に事業案内の掲載を依頼するとともに、博物館・科学館・図書館などの公共施設にチラシの配置・配布を依頼した。

安全配慮

- ・夏場のためエアコンのある教室で実施し、野外での実験では、テントを設置して日陰を確保した。また、休憩時間以外も水分補給できるよう配慮した。
- ・調理実験では火気を使用するため、受講生3～4人に対し1人の割合で実施協力者を配置して安全確保に努めた。また、消火器や消火用水を準備して不測の事態に備えた。なお、研究教育開発センターから事前に消防署への報告を行った。
- ・受講生、同伴者及び実施者（代表者・分担者・協力者）を短期の傷害保険に加入させた。その他の実施者（事務）については、大学が加入している保険を適用した。

今後の発展性、課題

- ・実験1「土の中から食べ物をみつけよう」は、多くの受講者に興味深く取り組んでもらえたようである。ただし、実際の研究では炭化した種子を探し出すが、実験では、わかりやすさも考慮して、現在の（色のついた）種子を用いた。実際の研究とわかりやすさとの調和をいかに図るかが課題と感じている。
- ・実験2「土器を使ってご飯を炊こう」での土器による調理も受講生の関心が高かったように思われる。今回は実施側で土器を事前に製作したが、土器製作をプログラムに取り入れ、受講生が製作した土器を用いて調理実験を行うことができれば、さらに魅力的なプログラムにできるかもしれない。
- ・小学生向けのプログラムということで、講義はわかりやすい内容となるよう配慮したが、やや難しい点もあったようで、さらなる内容の吟味が必要であると感じている。
- ・野外で火を用いる実験を伴うプログラムのため、7月下旬という実施時期は、やや不適切だったかもしれないが、夏休みの自由研究に提出するためか受講生アンケートでは、夏休みの開催希望が多かった。

【実施分担者】

鐘ヶ江 賢二 教務部実習支援課・書記

【実施協力者】 6 名

【事務担当者】

草宮 成美 研究教育開発センター・事務室長補佐